

文化情報誌

たわわ

SUMMER  
No.87

「たわわ」というタイトルには「小さな情報がたくさん集まって多くの実を結ぶように」という期待が込められています。

## さすらいの似顔絵師

今日も 明日も

本気で

描いてます



KOHEI MASUGI





# 「史跡の風景」第6回

## 湾岸随一の眺望点～湘南平～



湘南平から平塚市街地と東相模を望む

平塚市の南西部、大磯丘陵の一角にある湘南平は相模湾沿岸のほぼ中央にあって、湾を一望できる景勝地です。平塚八景のひとつに数えられ、神奈川の景勝50選にも選ばれています。山の名は「泡垂山（あわたらやま）」、平坦な頂上部はかつて「千畳敷」と呼ばれていました。

泡垂山の名は、今から820年前の鎌倉時代の事件、曾我十郎祐成と五郎時致の兄弟による仇討ちまつわる伝説に由来します。鎌倉幕府の記録を記した「吾妻鏡」が伝えるのは兄弟が工藤祐経を討取った事件の顛末だけですが、「曾我物語」には仇討ちを遂げるまでの兄弟の苦勞が描かれています。



平坦な頂上部

ある時、大磯の遊女虎御前の元になつた兄十郎が虎御前を巡って幕府の重臣和田義盛と小競合いになってしまいます。胸騒ぎを覚えた弟の五郎は、兄を助けるべく曾我の里から馬で駆けつけます。義盛の息子義秀の機転によってこの場の危険は回避されるのですが、物語に描かれるこの話に地元ではもう一つの逸話が付け加えられます。一刻も早く兄のもとへ急ぐ五郎は最短距離の山道を駆け上り、山頂で馬が口から泡を垂らしたという言い伝えです。そしてその時に馬の足元から湧き出した泉が「硯水」というわけです。

伝説の真偽はわかりませんが、物語は曾我兄弟が大磯に通うのは虎御前のためだけではなく、仇と狙う工藤祐経の動静と仇討ちの機会を探るためとしています。花水川の西岸にあって丘陵が海に迫る大磯は、東西交通のまさに急所。



曾我十郎の硯水

当時幕府があつた鎌倉と東海地方とを行き交う人や物資、そして情報の多くが大磯を通過していたのです。こうした交通路を眼下に見下ろす湘南平から高麗山にかけての尾根筋は、軍事的にも重要な眺望点となります。後の戦国時代に、相模国の攻略を目指す北条早雲は高麗山で挙兵、上杉謙信や武田信玄も小田原城攻撃の際には周辺に陣を敷いています。



高角砲の台座

時は流れ、第二次世界大戦が開戦した昭和16年（1941）頃から、火薬廠を囲むように防空砲台が作られます。湘南平も「千畳敷山防空砲台」として整備されました。現在電波塔の西、古い展望台の北側に残されている円形のコンクリートは、当時8cm高角砲を据え付けてあつた台座なのです。

昭和34年（1959）に公園として整備された千畳敷は「湘南平」と名付けられ、四季折々の観光スポットとして人気を集めていますが、そこはまた過去と現在の眺望が交差する史跡でもあるのです。（平塚市博物館学芸員）



西方、足柄峠を望む

### 平塚市文化振興基金にご協力を!!

平塚市文化振興基金は、市民文化の振興を図るために活かされます。基金に御寄附くださる方は、平塚市文化・交流課まで御一報ください。御支援をよろしくお願いいたします。

(電話 0463-32-2235)

### 平塚市文化振興基金に御寄附をいただいた方

H25. 2月から7月 (敬称略)

■湘南ステーションビル株 (H25.7.29)

友好都市提携記念特別展伊豆市コレクションによる

平塚市美術館 **天才たちの若き日**  
横山大観から速水御舟まで

10月12日(出)～11月24日(日)

平塚市と伊豆市の友好都市提携を記念して、伊豆市所蔵の日本画作品約70点をご紹介します。明治大正期に、修善寺温泉の旅館の主人が、横山大観・今村紫紅・安田靉彦・速水御舟らを支援し、収集した作品です。のちに大成する画家たちが、若き日に描いた魅力的な作品をご覧ください。平塚市美術館 0463-35-2111



横山大観『柳陰清談』一九一〇年頃